

作業療法教育研究 第6巻第1号 18-26 2006年7月

Japanese Journal of Research for the Occupational Therapy Education
6(1):18-26,2006

研究と報告

作業療法教育における臨床実習前客観的臨床技能試験(OSCE)の取り組み

A Trial of Objective Structured Clinical Examination (OSCE) before Clinical Practice
in Our Occupational Therapy Education

著者名:伊藤文香・鈴木孝治・村木敏明・齋藤さわ子・土澤健一

Ayaka Ito・Takaji Suzuki・Toshiaki Muraki・Sawako Saito・Kenichi Tsuchisawa

茨城県立医療大学 保健医療学部 作業療学科

Department of Occupational Therapy, Ibaraki Prefectural University of Health
Sciences

〒300-0394 茨城県稲敷郡阿見町阿見 4669-2

4669-2 Ami Ami-machi Inashiki-gun Ibaraki Prefecture 300-0394, Japan

要旨

平成16年度に本学3年生に実施された茨城県立医療大学における「総合臨床実習前 OSCE(以下, 臨床実習前 OSCE)」を紹介し, より質の高い OSCE 実施に向けて, 学生にアンケート調査を行い, 作業療法教育における臨床実習前 OSCE の特色と今後の課題を明らかにした. OSCE の実施自体は, 4年生の総合臨床実習の「準備・技能確認」としての位置づけとして適切であることが示唆されたが, 時期についてはタイトなスケジュールによる学生の負担も考慮しなければならないことが判明した. 課題直後のフィードバックは約9割以上の学生が「かなり有効」であったと回答する割合が多いことより, 学生の気づきを促し, 総合臨床実習に向けた課題を明確するために, 有効であることが示唆された. 今後は, 「作業療法教育評価基準」に基づいて OSCE 課題を設定することが必要であると思われる. OSCE の実施は, 学生だけでなく教員の教育に対する意識を高め, より質の高い授業内容を見直す機会となることにも大きな意義があると思われる.

キーワード: 客観的臨床技能試験 (OSCE)、アンケート調査、作業療法教育